

私立 成安造形大学

取組名称 『芸術による社会への貢献』を実践する成安パーソナルプログラム

取組担当者 学生支援部門主管 桑野 仁

1. 本学の概要

成安造形大学は、1993(平成5)年、学校法人京都成安学園(当時は京都成安女子学園)が設置した。設置者である学校法人京都成安学園は、1920(大正9)年、創設者である瀬尾チカが成安裁縫学校設立を認可されたときに始まる。京都成安学園の建学の精神は、成安裁縫学校を創設するに際して校名に使用した「成安」という言葉である。本学では、この「成安」という建学の精神を今日の時代に即したものととして次のように解釈している。

「人の和を大切にし、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、平和な社会をつくることに貢献する。」

また、1991(平成3)年の成安造形大学の設置申請に際して、特に設置を必要とする理由として「芸術と社会との双方向的な構造の構築を前提とする教育・研究へと質的な変化が求められている」ことをあげたが、これは「芸術による社会への貢献」という成安造形大学の基本理念となっている。

成安造形大学は、開学時、造形学部にデザイン科と造形美術科の2学科を設けていたが、2010(平成22)年に再編をおこない、芸術学部に芸術学科の1学科を設けるかたちとした。現在、旧の造形学部に2年生以上の773名、新の芸術学部に1年生の206名、合計979名が在籍する。

2. 本取組の概要

大学の基本理念である「芸術による社会への貢献」を実践する成安パーソナルプログラムは、学長を中心として全学を挙げて取り組むプログラムであり、1) 社会人としての基礎力を養成、2) 4年間を通じたキャリアプランの設計、3) 総合性と専門性を両立させるカリキュラム、4) スタッフによる徹底した個別対応、以上の4つの柱からなる。

そのうち、キャリアサポートセンター運営委員会メ

ンバーとキャリアサポートセンター職員が企画運営する取組は次の3つである。

①1～2年次を対象とした取組。これは、大学生活における目標を明確にし、進路に向けての意識づけを行う1年次対象の取組と、進路の具体的な目標を設定するための方法を学び、進路決定のための準備を行う2年次対象の取組からなる。

②進路決定のための行動をサポートする3年次を対象とした実践的な取組。

③保護者の協力と理解を得るための取組。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

成安パーソナルプログラムは、社会で必要とされる総合力を育成し、個々の学生の能力向上と自己実現を支援するプログラムである。一人ひとりに対し徹底してそのプログラムを実践することで、就職支援態勢の強化を図ることを中心に、経済的に自主独立していくことのできる人材育成に取り組むことを目的とする。

(2) 達成目標

入学時からの導入教育を充実させ、4年間を通じて社会人として必要な総合力の確保とさらなる向上により、就職内定率上昇に結びつけることを目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

就職内定率向上の達成のためにキャリア支援の授業科目等を活用し、各々の年次における達成目標に対する状況を把握したうえで、その状況を教職員が共通に理解し、また保護者に対しても一定の報告を行うものである。

キャリア支援の授業科目は、図1に示したとおりであり、専門教育及び教養教育と連動して、バランスよく実施されている。

インターンシップは、本学が実施するものに加え、財団法人大学コンソーシアム京都が主催するプログラムにも参加することができ、あわせて2・3年次在籍者の10%前後が参加している。

また、色彩検定とコンピュータ技能を中心として夜間に有償の講座を開いている。

キャリアデザイン教育の中核をなすのが1年次の「キャリアデザイン特講1」、2年次の「キャリアデザイン特講2」、3年次の「キャリアデザイン特講3」である。カリキュラムのうえでは選択科目であるが、各年次とも在籍者の90%前後が受講している。以下、その授業内容を本取組に関連するものを中心に紹介する。

(i) 1年次「キャリアデザイン特講1」

4月：働くことの意味と意義——そもそもなぜ社会に出たあと、働かなければならないのか？ 何のために働くのか？ など、講義のオリエンテーションを交えながら進路決定の原点を探求する。

5月：現代社会のワークスタイル——派遣社員とは？ 総合職と一般職の違いとは？ などの初歩的な疑問を解消し、現代社会のワークスタイルの多様性について学ぶ。

5月：就職は社会への価値還元——メリハリと意図

のある大学生活をデザインするために、大学で何を学び、それをどう社会に還元していくのかを考える。

6月：現代社会に必要とされる人間文化力——学歴重視から、現代の採用戦線ではどのような人材が選ばれるのか？ 時代の変遷とともに勉強する。

6月：就職活動にふれてみる——実際に自分の身上書を作成し、自分自身をPRすることを体感する。

9月：人に伝えることの重要性——ペアワークを通して、人にものを伝えることと「質問」の重要性を考える。

10月：社会で活躍する人たち——芸術分野で実際に働いているゲストを招き、自分自身の夢を考えるきっかけとする。

10月：積極的な話の聴き方——話すよりも難しいと言われる、積極的傾聴について、ワークを含めながら学ぶ。

11月：様々な大学生活の過ごし方——大学生活における様々な選択肢について、得られると考えられるものを交えながら考える。

11月：人生とやりたいことと仕事の関係について——自分のやりたいことを仕事にするのは果たして正解なのだろうか？ 経済的自立という側面とあわせて考

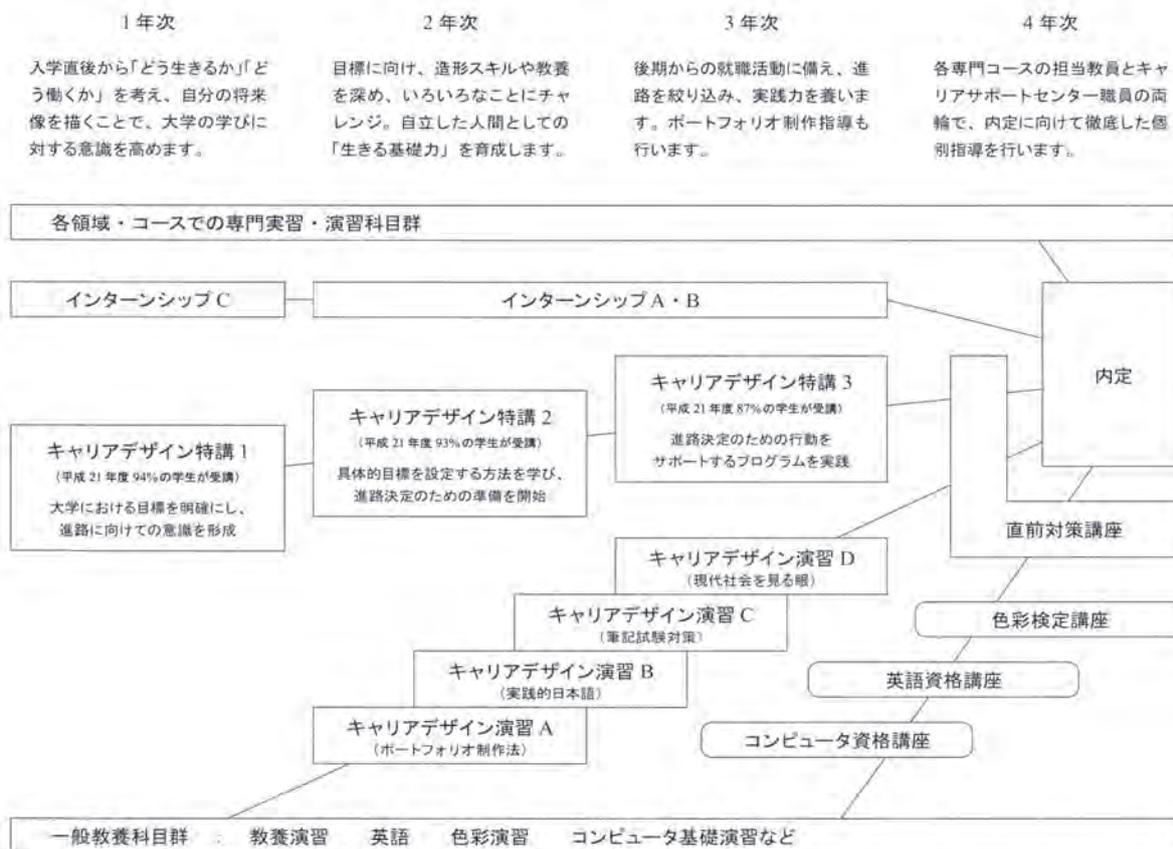


図1 成安造形大学におけるキャリアデザイン教育のカリキュラム

える。

12月：キャリアデザインについてのまとめ——ここまでの講義をふりかえり、これからの学生生活と進路選択を考える。

12月：最終レポート作成——この1年をふりかえり、キャリアデザインについてどれくらい明確になったか、レポートにまとめる。

(ii) 2年次「キャリアデザイン特講2」

5月：自己発見・表現とコミュニケーション能力1——自己発見シートの作成をしながら自分を知ることとPRの方法を考える。

5月：自己発見・表現とコミュニケーション能力2——社会で求められるコミュニケーション能力とは何か？ ワークシート実習を用いながら考察する。

6月：自己発見・表現とコミュニケーション能力3——実践型の模擬面接を実施したのち、どのように自己PRするべきか、考察する。

9月：業界研究1——企業人を招き、デザイン分野を中心に業界について詳しく講義していただく。

10月：業界研究2——企業人を招き、メディア分野、ゲーム分野等、業界について詳しく講義していただく。

11月：業界研究3——企業で働く卒業生を招き、デザイン分野を中心に業界について詳しく講義していただく。

11月：業界研究4——企業で働く卒業生を招き、メディア分野、ゲーム分野等、業界について詳しく講義していただく。

(iii) 3年次「キャリアデザイン特講3」

4月：キャリアコンサルタントによる講演——就職する、社会に出るとはどういうことなのかについて、キャリアコンサルタントの立場から講義していただく。

5月：職業適性検査——職業適性検査を受験し、自分の職業適性を客観的に把握する。

5月：一般常識模試——一般常識模試を受験し、自分の基礎学力を客観的に把握する。

6月：労働の法律について——社会保険労務士を招き、労働に関する諸法について詳しく講義していただく。

10月：マナー講座——アルバイトで教わったマナーが就職活動では通用しないことに気づく。理論と実践を学ぶ。

12月：面接対策講座——模擬面接を行い、面接での発言内容やマナー等を個別に指導する。

(iv) キャリアデザイン演習

キャリアデザイン演習は、各年次のキャリアデザイ

ン特講をふまえ、2・3年次においてより具体的に基礎力を養うことを目的として開講している。キャリアデザイン特講と同様に選択科目であり、科目によってばらつきがあるものの、在籍者の50%前後が受講している。

「キャリアデザイン演習A」では、ポートフォリオの作成を行う。ポートフォリオとは、面接時に提示する自らの制作活動の記録である。

「キャリアデザイン演習B」では、漢字や慣用句等の国語知識を復習する一方、敬語と敬意表現、手紙の書き方等、社会人としての文章作法を学び、さらに表やグラフを分析して論理的な文章を書くといった、実践的な文章力を養う。

「キャリアデザイン演習C」では、漢字や慣用句等の国語知識を復習する一方、時事・一般常識を確認し、数理に関する問題を解いていく。

「キャリアデザイン演習D」では、少子高齢化、情報化社会、社会講演等、毎回テーマを決めて新聞記事を持ち寄り、現代社会の諸問題について議論を重ねることで、理解を深めていく。

(v) 直前対策講座

正課の科目ではないが、3年次を対象に以下のとおり、直前対策講座を開いている。

12月：面接基本講座——実際の場面を再現したロールプレイングを下に面接突破力をつけることを目的とする。

1月：リクルートメイク講座——自分が持っているメイク道具を使い、リクルートにふさわしいメイクの基本的な部分を身につけることを目的とする。

1月：エントリーシート実践講座——実際にシートに記入したものを提出させ、後日、添削したシートを自宅に郵送している。

1月：ポートフォリオ指導講座——面接時に提示する自らの制作活動の記録、ポートフォリオを完成させる。

2月：就職筆記試験対策講座——模試を受験し、解答解説を聞く。

(vi) 保護者との連携

保護者の世代の就職活動と現在のそれとは大きく異なり、学生の卒業後の進路を確かなものにするためには、保護者の理解と協力が重要不可欠である。これまで、成安造形大学教育後援会の会報『湖西発』にキャリアサポートセンターからの報告を掲載し、就職率の推移、主な進路、就職先業種の割合、就職先職種の割合、キャリアサポートセンターを中心とした主な取組

等を紹介してきた。

これに加え、キャリアデザイン科目を中心とした就職支援のプログラムを紹介する保護者向けの冊子『キャリアデザインガイド』を刊行し、すべての保護者に郵送した。これは、成安造形大学における学生へのきめ細かな支援体制の仕組みを周知徹底させ、保護者の理解と協力を求めることを目的としている。

保護者の理解と協力が得られることにより、学生の就職に対する意識が向上し、結果としてキャリアデザイン科目の履修率が向上するだけでなく、専門科目や教養科目の履修率も上がり、専門家として、また社会人としての実力を持った学生を養成することが可能となる。

(2) 取組の実施体制

学長を中心としたマネジメント体制の下、学生支援部門を担当する学長補佐が本取組を管轄し、教員側のキャリアサポートセンター運営委員会と、職員側のキャリアサポートセンター職員が連携して、企画運営にあたっている。

キャリアサポートセンター運営委員会は、学長が指名したキャリアサポートセンター長の下、専門教育の各分野並びに教養教育の分野からバランスよく選ばれた教員によって構成されている。

キャリアサポートセンターは、学生支援部門を担当する主幹の下、教務とキャリアサポートを担当する主査、キャリアサポートを専門に担当する主事、専任職員及び嘱託職員によって構成されている。キャリアサポートセンターの実務を統括する主査が教務も担当しているため、キャリアデザイン教育と専門教育・教養教育との連携も潤滑である。

キャリアサポートセンターの活動状況は、定例教授会においてキャリアサポートセンター長から報告され、あわせて全教員に対してキャリアデザイン教育の指導のポイントが説明されている。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

キャリアサポートセンターでは、卒業時の進路状況をこまかに調査し、キャリアデザイン科目の履修状況のみならず、4年間の全般的な履修状況、またキャリアサポートセンターの利用状況と進路状況との関連を注意深く分析して、定例教授会で報告している。

また、学長のマネジメントの下に、自己点検・評価

委員会が卒業時の進路状況の分析結果を把握し、本取組の評価体制を構築する。

(2) 達成目標に対する達成度の指標

1～3年次においては、インターンシップの参加者数、並びにそれに準ずる産官学連携事業や地域連携事業（成安造形大学ではこれらの事業を「プロジェクト演習」「プロジェクト特別実習」として正課の科目にしている）への参加者数の増加が達成度の指標となろう。また3年次においては、キャリアデザイン特講の受講率はすでに90%前後と高い水準にあるが、受講率が50%前後のキャリアデザイン演習の受講率も指標となる。

4年次においては、就職率が指標となろう。成安造形大学の就職率は、全国芸術系大学の平均値を常に10ポイント前後上回ってきた。さらに向上させていきたい。

6. 本取組の実施計画等

本取組においては、年次ごとに目標を明確に定め、前述のキャリアサポートセンター運営委員会とキャリアサポートセンター職員が連携し、企画運営に当たり、その活動状況は定期的に教授会にも報告されている。

また、本取組は、キャリアデザイン教育のカリキュラムとして成安造形大学のカリキュラム全体のなかにすでに位置づけられており、財政支援期間終了後も「芸術による社会への貢献」を基本理念とする成安造形大学の根幹をなす教育活動並びに学生支援活動として定着していくことはまちがいない。